

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600143		
法人名	医療法人透視		
事業所名	グループホーム白い石		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福吉		
自己評価作成日	令和3年5月20日	評価結果市町村受理日	令和3年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは平屋でありすぐに外に出られる環境で入居者は散歩や外気浴を楽しむことが出来る。同法人の老人保健施設が隣接しているため、入居者に体調不良があった場合は24時間すぐに看護師に駆けつけてもらうことができ指示を得ることが出来る。そのため職員、入居者、家族も安心できる環境である。令和2年11月新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したため、杵藤保健福祉事務所、佐賀大学青木教授に指導を受け、現在は、衛生面、消毒の仕方、食事の仕方etcなどすべてにおいて指導通りに行っている。コロナ禍であり、外出や面会が出来ないため、LINE(アプリ)によるリモート面会を取り入れ、入居者の皆様には寂しさを癒してもらっている。また、近況はリモートやメール、電話で報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな白石平野の中央に位置している、老人保健施設に併設されたグループホームである。24時間、医療と連携ができる環境であり医療面のサポートや緊急時の対応も万全である。建物は、平屋立てで日当たりがよく、広い敷地の外周には遊歩道が整備されている。また、中庭では季節の花々が入居者の安らぎとなっている。令和2年11月にコロナウイルス感染症の方が発生したが、その後の徹底した管理により入居者の安全な日常を取り戻している。コロナ禍において家族や友人との交流機会は減少したが、リモートやオンラインでの面会、入居者の日常を知らせるお便りなど職員の工夫で繋がりを感じてもらえるよう心配りがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関とステーションに理念を掲示している。毎日目につくことで共通理解が出来ている。職員は理念を意識して入居者にサービス提供を行っている。	毎朝礼時や申し送り時に開設当時から理念である「親孝行」の指針を確認している。勤務年数の長い職員が多く、ホームの理念を一人ひとりが十分理解してケアを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週3回近所の魚屋が行商に来られており入居者と一緒に食品を見ることが出来ていたが、人とのふれあいが出来ないため出来ない。また、となりの障害者施設との交流もボランティアの訪問もなくなっている。	コロナ禍以前は様々な地域交流に取り組んでいたが現在は感染防止の観点から行っていない。コロナ禍の終息後は、町の行事への参加や隣接する障害者施設との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種研修受け入れも、訪問、見学も自粛になり認知症の高齢者の理解を深める機会もなくなっている。また、運営推進会議も書類上の情報提供を行いそれに対する返信により話し合いの機会も減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、行政、家族などの参加による会議は出来ず、奇数月に年6回情報提供を行った。その資料に対してのご意見や感想を送ってもらっている。それをもとにサービスに生かしている。	感染防止の観点から対面での会議開催はできていないが、写真を交えた広報誌やお便りを発行して、施設の様子を知ってもらうように努めている。出された意見を職員で共有して現場に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当ホームは令和2年11月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、杵藤保健福祉事務所、杵藤介護保険事務所、感染症専門の佐賀大学教授等々、いろいろな方からご指導を得ることが出来た。	市町村との相談・連絡・報告は常に行い、円滑な関係作りに努めている。特に、コロナウイルス感染者が出た際には協力して対策を徹底して行った。連絡を密に取り合う体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束の委員会を行っており、報告や対応を話し合っている。また職員は新型コロナウイルス感染症の為、研修、勉強会に参加は出来なかったが、資料にて理解をしている。職員全員が周知徹底している。身体拘束は行っていない。	施設内研修を行い職員は拘束に関する知識を深めている。身体拘束をすることはなく、夜間の玄関施錠のみである。日中は玄関も施錠はせず、入所者の安全は確保しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で定期的(1カ月毎)に委員会が行われている。何気なく行っている声掛けや行為を確認し振り返りをしながら職員間で注意し合える環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員のほとんどが実際にかかわった経験がない為、グループホーム内で勉強会等行っている。また、自己研鑽により理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際、運営規定、重要事項説明書など懇切丁寧に説明を行い、利用者や家族が疑問に思われる所はその場限りではなく面会等、機会あるたびに説明行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱はホームと隣接している老健に各設置している。入居の際に説明しており、家族も理解している。日頃から話しやすい環境作りに心がけている為、相談事は管理者が直接聞く事が多い。その結果については職員で共有している。	現在はコロナ禍であるため、直接会うことはできないが、リモートで行事やレクリエーションの様子を送ったり、受診後に近況報告で電話をしたりして意見を伺っている。また、アンケートを実施し、出された率直な感想等を活かせるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開きその場で意見を反映させている。また、行事前や、問題が発生した時に随時話し合いを設け意見交換も行っている。	管理者は風通しの良い職場作りを心掛けており、意見交換や日々のコミュニケーションも円滑に行われている。良好な関係が前向きな協議や運営に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、各種手当等あり、1年に1回職員は自己評価を行い、上司の評価を受けている。業務内容を見直しほとんど定刻で勤務が終了している。そのため、職員も働きがいのある職場である意識がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症の広がりの為、施設内の研修にとどまっている。しかしリモートでの研修参加なども進めている。また、資格取得に関しても推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和2年度は白石町医療介護等関係者連絡会、研修会、協議会、交流会などすべてが中止になり、交流が出来ていない。また、白石町グループホーム地域連携協議会に関しても行う事ができず、管理者間の交流もできなかったが、電話での情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に情報提供を行ってもらっている。事前に顔を合わせ、入居者の不安や要望を聞かせて頂き、適切な支援の方向性を職員間で話し合い、より良い介護が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様が困っていることに対してどれくらいの支援が出来るのかを職員で話し合うことでより良い介護の提供が出来るようにしている。入居する上での不安を出来るだけ取り除き本人、家族とのより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が本人に対して、どのような支援を一番必要と考えているのか、聞き取りることにより、ケアプランを立てる段階で、まずは優先すべき問題を取り入れ支援する様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく上で、出来ることはやっていただき、ひとりひとりの個性に応じた作業を、職員と共に行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症の為に、家族との面会も行えていないが、何か問題やお願い事がある時はすぐに電話で家族様に相談している。家族様も毎日の生活が気になっておられる様子で、安心できるような電話をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切に思っている家族にも、事あるごとに、面会や外出を勧めていたが新型コロナウイルス感染症の影響で面会をすることが出来ず、お盆やお正月も外出外泊もできない状態で、入居者の精神状態を見ながら、安定を図っている。	コロナ禍で以前のように外出や面会が思うように出来ないが、施設での様子を配信したりお便りで伝える等、家族や友人との関係が途切れないように、職員が支援に努めている。	家族や馴染みの人との関係継続の為に本人の状況を伝えているが、その際には、本人だけでなく、職員や他の入居者との関わりがわかる写真や動画などの配信も効果的と思われる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことでホール(食堂)にはアクリル板を設置し、入居者間はソーシャルディスタンスを保ち生活行っている。新型コロナウイルスが落ち着いた時点でレクリエーションや食事は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近の面会は行っておらず、家族様がGHに立ち入ることが出来ないため、生活状況は、LINEによるビデオ面会を行い家族との関係を補っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の本人との会話により何を一番に望んでおられるのかの把握に努めている。安心して伝えられるような環境作りにも配慮している。上手く伝えられない方に対しては家族とも話し合っている。	表情や態度などで入居者の思いや意向を把握するように努めている。意向の表出が困難な方については家族からの聞き取りや生活歴の把握により、本人の思いに沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人からの聞き取りを行い、担当ケアマネからの情報やケース記録などで情報を収集したり、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶり、病歴、性格などを聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	環境の変化は認知症の高齢者にとって、心身の変化が出てきやすいため、現状の把握を行い、これまでの生活が維持できるようケアプランにも反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の折、家族の要望も配慮し、できることを中心にケアプランを立てている。1ヶ月毎のモニタリングにて介護計画を確認し、現状にそぐわないプランについては見直しを行っている。	介護計画やモニタリングの記録が整備されており、プランの見直しや継続など適切な支援に役立っている。本人や家族の要望や状況の変化にも臨機応変に対応できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は申し送りや記録等で共有している。特に体調不良の場合など、誰もがわかりやすいように記録を行い、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、臨機応変に対応している。家族との面会が出来ないため、リモートによるビデオ面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は隣接している障害者施設で買い物したり、運動会、収穫祭などの催しものに参加したり、地域出入りの魚屋さんと交流したり、併設託児所との交流行事の参加等、行っていたが令和2年度は新型コロナウイルス感染症の為、全く出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族対応であるが、令和2年度はすべて職員で対応している。主治医と直接会話することが出来、ケアの面でも必要な事はアドバイスを受けている。	これまでは家族対応で受診してもらっていたが、現在はコロナ禍であるため、受診はすべて職員の同行で行われている。受診後は家族と連絡を密に取り、信頼関係がより強まっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者全員と出退勤時あいさつを交わすようにしており、常時の状態を確認している。医療連携を取っている併設看護師は定期で訪問されるため、状態報告し、対応の仕方やアドバイスを受けている。状態変化の時にはすぐに対応出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合も定期的に状態を観察に行ったり、電話で連絡を取りながら退院後の事について病院側とコンタクトを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りは行っていない事を説明している。状態が悪化した場合、救急搬送する病院など、家族様からききとっている。今後についての話し合いもある程度の道筋をつけて家族の不安解消に努めている。その場合には主治医やホーム職員にも情報提供し、方針を共有している。	重度化や終末期の在り方については、入居時に説明をしている。段階に応じて主治医と本人・家族の話し合い、適切な医療機関との連携など細やかな対応と情報共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会において、職員全員定期的(年2回)施設内研修において知識を得ている。事故発生時の通報マニュアルは職員全員が把握しており確認もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同で昼夜想定のもとで避難訓練を実施している。地域の消防団の参加は新型コロナウイルス感染症の為出来なかった。令和元年は水害も発生し、避難経路や方法、協力医療施設との連携を確認した。	年2回、併設施設と協力して日中・夜間想定で避難訓練を実施している。近くに六角川があり、2年前の水害以降は救命胴衣やボートも購入し、食糧備蓄などできるだけの手立てを講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しかける際には、本人の性格、感情に配慮し誇りやプライバシーを傷つけないよう、言葉かけや会話を行っている。不適切な対応を行った時にはその都度注意し合っている。	入居者との適切な距離感を意識して、尊厳の中にも親しみや温かみのある支援を実践している。入浴時や排泄時のプライバシーには十分配慮し、個人情報や重要書類の取り扱いについては管理が行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の中には聴覚障害者がおられる為、筆談のボードを準備したり、居室も矢印や貼り紙を出したり工夫している。ほとんどの高齢者は目や耳が不自由な為、出来るだけ、わかりやすく話しかけ、会話の中で本人の思いや希望を表現できるよう環境を整えたり、個性を重視し選択肢を準備することで自己決定に至る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人の体調やその日の気分に寄って1日を過ごしてもらっている。毎日のレクリエーションでは、出来るだけ一緒に楽しい時間を共有することが出来るように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に本人に着たい服を選んでもらったり、化粧品などを購入し、身だしなみの支援している。1か月に2回指定の理容業の方が訪問され散髪を実施されている。その際希望する方は行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、野菜の皮むきなど入居者の能力に応じ、会話を交えながら食事の準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生後は食事の準備に関しては行っていない。	3食ともにグループホームで手作りの食事が提供されている。入居者の好みや旬の食材を取り入れて、食欲や関心を高めている。リクエスト食や行事食など工夫を凝らすことで食べる楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えて食事を提供している。水分は1日の中で必ず補給する時間を決めて実施している。食事については個人に応じた食事形態を提供し、チェック表により食事を把握して対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては毎食後、実施している。状態に応じて困難な方には介助を行っている。また、入れ歯の管理が難しい方はこちらで預かっている。口腔状態に問題がある場合は本人の希望により、協力歯科に依頼し訪問行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により全員の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導により汚染も軽減している。夜間は個々に沿った排泄時間に誘導している。	排泄チェック表の活用でパターンを把握している。プライバシーや言葉かけに配慮して、誘導や介助を実施している。夜間も個別パターンに合わせて誘導しており全員トイレで排泄が来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては排泄チェック表にて排便間隔を把握している。排便困難者については、薬だけに頼らず、食事内容、食事量、水分量などに配慮し予防に努めている。便秘が続く場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日で実施している。その日の入居者の体調や気分により自己決定できる。毎日お風呂は沸かしていることで状態に沿った支援ができています。(日曜日は中止しケアの日に当てている。)時間帯は14:30頃より一人ずつ誘導しリラックスできるようゆっくり入ってもらっている。入居者はそこで思っていることを話している。	一人ずつの入浴対応となっており、本人の気分や希望に合わせて順番や時間を変えて支援している。しょうぶ湯やゆず湯など季節感も大切にして入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠状況のパターンを把握している。日中、日光浴や軽い運動、午睡を取り入れることにより生活のリズムを整え、入眠しやすい環境を作っている。9室中2室は洋室のベッド部屋に改装おこなった。その方にあつた部屋の提供行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があつた場合、申し送るだけでなくケース記録に最新の薬の説明書を入れ、副作用についての状態の観察を行えるようにしている。また、1回分ずつケースに入れ2人以上で確認行い本人と、薬を照らし合わせ間違いがないよう服薬してもらっている。最後にチェック表に記入行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、好きなことや得意な事(塗り絵、習字、縫い物、洗濯物干し、たたみ、他)を日々の生活の中で習慣として行うことが出来ている。できた時の達成感で満足することが出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年になり、新型コロナウイルス感染症の拡大により著しい行動制限を余儀なくされ、普段行っているようなドライブ、家族会や行事、買い物支援などことごとく中止せざるを得なくなった。家族と会う機会もなく、リモート面会のみとなった。最近ラインでのビデオ面会が行えるようになり、家族様には普段の写真や日常の様子などを送っている。	コロナ禍であるため、以前のような外出は出来ていない。しかし、敷地内の散歩で季節の花々を愛でたり、屋外の空気の中で自然の移ろいを感じてもらえるような声掛けを行い、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より日常生活の中で自由に使えるお金を預かっている。以前は週1回買い物支援を行っていたのだが、現在は買い物に出かけることはなくなっている。ワクチンの普及により、新型コロナウイルス感染症が収まってから外出の機会を設けようと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や絵手紙などを製作し、家族に送ったりしている。また、最近ではLINEによるビデオ面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋であり、すぐ外に出られる環境になっている。採光が良く明るくて気持ちが良い。玄関やホール棚などに季節の花を飾っている。換気に注意し、空気よどみがないようにしている。また、各居室、ホール、廊下に温度計、湿度計、空気清浄器を設置し、適切な温度管理を行っている。	明るくゆったりとした雰囲気、フロアの飾りつけや家具の配置も居心地の良さや活力を引き出せるよう整えられている。温度・湿度の確認と定期的な換気が行われ、清潔で快適に過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの随所には椅子をおいており一人でゆっくり外を眺めたり、気の合った仲間同士がくつろいだり出来る。北側は畑や風景を見る場所に適している。天気の良い日は外に椅子を置き、花壇を見たり外気浴をしたり気分転換を図る事が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は段差を設け畳敷きとなっている。(2部屋はベッド部屋)入居者や家族とも相談し、馴染みの品物や使い慣れた家具が持ち込まれ入居者にとって安心出来る居場所になっている。	畳敷きの居室とフロアリングの居室の二通りがあり、入居者の身体的状況や希望に応じて選択できる。馴染み深い品や思い出の品を持ち込むことができ、安らぎと温かい雰囲気に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付がわかる様日めくりカレンダーを設置したり、居室やトイレなど場所がわかりやすいよう工夫している。床は段差がなく歩きやすいため自由に歩行訓練する方もおられる。		